

4月17日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、学習への意識や基本的生活習慣、規範意識を問う調査も実施されました。こうした調査の結果をふまえ、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語A（主として知識）・国語B（主として活用）、算数A（主として知識）・算数B（主として活用）、理科の3教科の調査が行われました。どの教科においても、全国の平均正答率を大きく上回る結果でした。問題ごとに見ても、全国の平均正答率を下回るものはなく、非常によくできていました。日々の取組の積み重ねや家庭学習の充実、学習指導の成果であるにとらえています。

国語科より

A問題は、おおむね70%～90%の正答率でした。しかし、主語と述語との関係に注意して正しく文を書く問題の正答率が低調でした。文を書くとき、主語と述語を意識することを、学習の中で積み重ねていくことが今後も大切であると思います。

B問題では、話し合い活動の進め方や推薦文の推敲などについて出題されました。全国の平均正答率を10%以上上回る解答がほとんどでした。目的や意図に応じて、書かれている内容の中心を明確にして、詳しく書く問題の正答率は著しく低い結果でした。調べて分かった事柄や事実を、どのような言葉で表現すれば自分の考えが明確に伝わるか、学習する中で意識して取り組む必要があります。また、複数の情報を関連付けて考える機会を学習の中で意図的に設定することを、今後大切にしていきたいと思います。

算数科より

A問題は、全国の平均正答率を15%以上上回る解答が複数ありました。よくできています。単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を問う問題についてのみ、正答率がやや低い結果でした。数量の関係に着目して、図と式と言葉を関連付け、整理しながら解答する過程を今後も大切にして学習を進めていきたいと思います。

B問題では、図形や数値などの情報を解釈したり関連付けたりして解答するなどの問題が出題されました。ほとんどの問題で全国の平均正答率を10%以上上回っていました。しかし、グラフの情報とメモからの情報を関連付けて、総数や変化を解釈する問題の正答率はやや低い結果でした。一定の情報を複数の観点で考察したり表現したりする活動を学習の中で意図的に取り入れていくことが必要であると思われます。

理科より

理科でも、全国の平均正答率を10%以上上回る解答が多数ありました。知識・理解や科学的な思考・表現など、どの観点でも正答率も高い結果が出ていました。しかし、中には正答率の低い問題もありました。実験結果を基にして分析・考察し表現する問題や実験結果を生かしたものづくりに関する問題でした。学習の中でも結果（事実）を分析し、考察したこと（解釈）を記述、説明する指導や学んだことをものづくりに活用する機会を充実させることが必要であると思われます。

児童質問紙調査から

Q. 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか。

上記の質問による全国の結果では、約65%の児童が1時間以上と回答しているのに対し、本校では、ほぼ80%の児童が1時間以上と回答していました。さらに、3時間以上と回答した児童は、全国では約12%であるのに対し、本校では約40%が回答していました。

学校の授業時間以外でも、普段(月曜日から金曜日)から学習に取り組む習慣が身についたり、学習の機会が設定されていたりすることで、学力にも結び付いていると思われます。

今後もこうした学習習慣の徹底や学習機会の設定などを継続していくことができるように家庭と連携していきたいと思います。

全体を通した本校の成果と課題

本校では学校教育目標を「学びの広がりや深まりのある学校」とし、めざす子ども像を「心やさしくすこやかに 大きな希望を胸に抱く子」として、取組を進めています。

学力向上の取組に関しては下京中学校ブロック5小学校では学力情報を共有して、日々の指導方法の改善や個に合った指導の改善に努めています。本校では研究主題を「自らかかわり、創造的に学び合う子～主体的で対話的な学習の充実～」とし、これからの社会に求められる能力の育成を促す視点を全教育活動の根底において、「課題対応能力」の育成を図るため取組を進めている。「課題対応能力」を「自ら学ぶ力(学ぶことに興味・関心をもち、目的と見通しをもって取り組む力)」と「ともに学ぶ力(他者と協力してよりよいアイデアを創造する力)」とし、主体的で対話的な学習を充実させていきたいと考えています。また、3年前から「のびのびトレーニングタイム」を設定し、年間を通して論理的に話し合う活動や書きまとめる表現力の育成を目指した取組も継続しています。

今回の調査で大変良い結果を得ることができたことと、今後の本校での取組とをより関連付けて進めていけるようにしていきたいと考えています。

また、児童質問紙で、「自分にはよいところがあると思いますか」「人に役に立つ人間になりたいと思いますか」といった質問に対して全国平均を上回る割合の児童が「ある」と答えている点はよかったと思っています。

しかし、「学校のきまりを守っていますか」などの規範意識を問う質問では、さらに向上を目指していかなければならないと考えています。指導すべきことはしっかりと指導した上で、話し合い活動の話題に取り上げるなどし、決まりの必要性を自分の頭で考え、友達と交流しながら考えを深めていけるような機会を増やしていくことが必要だと考えています。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は学校・家庭の地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤になります。今回の本校の結果を見ると、これまでの調査と比べて、学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもたちに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力お願いいたします。